

協働プロジェクトによる交流会の開催 報告書

～ 中高年者が構築する情報通信メディアを活用した市民活動 ～

開催日：2005年6月4日（土）
 場 所：藤沢産業センター 6階研修室
 責任者：N.K.：NPO法人 湘南ふじさわシニアネット 代表理事
 S.H.：Let's ふじさわ（IT講師懇談会）代表
 I.T.：NPO法人 コネット湘南 代表理事
 菅沼久美子：慶應義塾大学政策・メディア研究科 修士課程1年
 協 力：藤沢市市民活動推進センター

1. 協働プロジェクトによる交流会・ワークショップ概要



交流会は、藤沢市における情報通信メディアを活用して地域活性化・情報化をめざす3つの市民団体（事例発表順：NPO法人・湘南ふじさわシニアネット、有償ボランティア団体・Let's ふじさわIT講師懇談会、NPO法人・コネット湘南）の代表等が協働プロジェクトチームを形成し、藤沢市市民活動推進センターの協力により2005年6月4日に藤沢産業センターにおいて開催された。

ワークショップでは、2007年問題（団塊世代の大量定年時代）を模索するために、団塊世代の定年後の可能性などを幅広く議論することを目的として、市民活動や地域社会に関心の深いNPO、市民及び行政関係者などが参加し、3つのグループ（働く・役立つ、学ぶ・集まる、遊ぶ・楽しむ）に分かれ詳細かつ熱心な話し合いを行った。

2. 交流会発言内容のまとめ

グループ	働く・役立つ	学ぶ・集まる	遊ぶ・楽しむ
	・地域で働く仲間に喜びの場を作ることが必要	・地域や仲間のネットワークを作る ・退職後は地域社会で新たな人間関係	・高齢者支援活動を模索している

団体活動 個人活動	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の活性化の為に、リーダーの存在と役割分担が必要 ・おもちゃの病院で修理を担当しているが、今後は電化製品の修理の支援事業を興したい 	<ul style="list-style-type: none"> を構築する ・地域は新たな発見の場 ・地域に関心をもつ ・ボランティア、NPO 団体の活動拠点などを紹介できる組織作りに参加したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・趣味の世界(スポーツ、海外旅行など) ・好きなことを楽しむ ・コミュニティカフェ構想
行政との 協働	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の提言を受けて、実現の為に協働する制度を設ける ・生涯学習の講座に技能教育を設ける ・市民活動推進センターの協力が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・集まれる場が必要 ・市民活動センターのような施設を藤沢市北部に欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援福祉ボランティア ・地域、行政関連、生涯学習の IT ボランティア
大学との 協働	<ul style="list-style-type: none"> ・慶応藤沢イノベーションビレッジの活用を検討する ・湘南工科大学の市民活動に協力する 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティビジネスの創出に大学のインキュベーションセンターの利用も選択肢に入れる 	
企業との 協働	<ul style="list-style-type: none"> ・市内企業と経営、技術の連携 ・千葉では、団地建物のリフォーム関連の技術講習を行っている 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層にも関心を払う ・社会貢献意欲、経済的事情に応じて多様な就労形態の構築・選択を求める 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動などの情報収集は、自らも行うが第三者からの提供も必要 ・常に情報発信を心がける ・他地域の活動団体との連携も重要 	

3. 「団塊世代」をテーマとする市民活動による地域の活性化に対する意義

市民活動は個人の趣味的活動から自己実現といった個の活性化に直結するものが多々あるが、これが集団で行われることにより地域の活性化という公益性のある活動へと発展させることが可能である（図1：中高年者による市民活動概念図を参照）

(1) 活動の形成効果

地域の様々な主体が参加する活動を通じて継続性のある組織を形成

(2) 地域アイデンティティの醸成効果

地域の歴史や人的資源などと結びつけることにより、地域の特色や地域の個性を形成

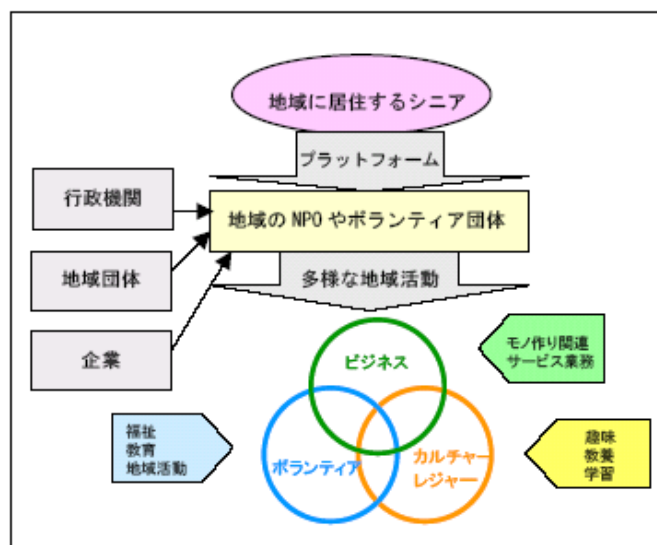


図1：中高年者による市民活動概念図

- (3) 人材育成効果
活動に参加する人、支援する人、指導する人等様々な役割を担う人材を必要とし、結果として地域リーダーの育成・発掘等を促進
- (4) 地域情報の発信効果
個性的な活動の内容が情報として各種のメディアに乗りやすい
- (5) 他地域との交流効果
共通テーマで活動している地域や人々との交流を促進
- (6) 経済効果
各種イベントの開催等により産業活動を誘発

4. 「団塊世代」をテーマとする市民活動支援のあり方

「団塊世代」をテーマとする市民活動支援は、活動を 3 つの段階に分け、発展の時期に応じて支援のあり方を適切に行う。

- (1) 動準備期（活動を組織化し、活動を形成していく段階）
地域において活動の中心となる人材を発掘・育成していく
 - (2) 活動開始期（活動を立ち上げていく段階）
活動を立ち上げ、軌道にのせるために必要な効果的支援
 - (3) 活動継続期（活動が軌道に乗り、継続していく段階）
活動を継続・発展させる為の仕組みづくり（活動場所の確保、中高年者と組織等のネットワークの形成、活動の顕彰等）に対する支援方策
-